

特技の持ち主たち

私が出会った際だった特技を持っている子どもたちを二人紹介したい。二人とも特別支援学校の中学部に通っていた子どもである。

ひとり目はAさんである。彼女は単語では話すことができるのだが、少し難しい質問には相手の言ったことをオウムのようにそのまま答え、会話が難しい子どもだった。そんな彼女の母親から、あるときこの特技について教えてもらった。その話を聞いたときは、失礼ながら「えっ、まさか」と疑ってしまったものだった。

次に会ったとき半信半疑で試してみたのだが、私はとにかく驚きそして感激した。

「〇年の〇月〇日は何曜日ですか」と尋ねると、即座に答えてみせる。過去や未来のいろいろな日を次々と質問すると、どの日についても表情も変えずに正しい答えを言うのだった。驚いた私が「どうやって覚えるのでしょうかね」と母親に質問すると、母親も首をかしげるばかりであった。

次はBさんである。彼も言葉でのやり取りのむずかしい子どもだったが、ボールペンや細めのマーカーペンを使って絵を描いた。色は塗らずに、線だけで描くのである。

建物、自動車、自転車、樹木、草花など、どんなものでも描いた。細かい線を使って丁寧に精密に描くのだが、写真のような正確さとは少し違っていた。

描くものの特徴や印象的な部分が強調され、デフォルメされているのである。ハンドルの曲線に特徴のある自転車を描くときは、ハンドルが実際よりも大きく、曲線が強調されて描かれている。葉の形に特徴がある草花の場合は、葉の様子が強調されているといった具合である。

そんな彼が身近な人物を描いたときの絵は特に印象的であった。その人の髪型や顔の特徴、メガネやひげの様子、着ているものの特徴などを、彼なりに強調して描くのである。大真面目に描いているのだが、描き上がった絵を見ると思わず吹き出してしまうこともあった。その人の特徴を遠慮なくとらえて描いた絵は、とにかくユーモラスで楽しいものであった。

二人とも、いまはいい大人の年齢になっている。会う機会はなくなってしまったが、あの特技でまわりの人たちを驚かせ楽しませているのだろうと思う。